

漁業者参加型漁場監視体制整備事業

小泉広明

目 的

漁業者自らが積極的に監視活動を行うことにより、漁場保全及び監視に対する意識の向上を図る。

材料と方法

1 実施方法

漁業者がエクマンバージ採泥器で採取した底泥を分析する。

2 調査地点

青森、野辺地、むつ、脇野沢

3 分析項目及び方法

化学的酸素要求量(COD)：アルカリ性過マンガン酸カリウム-ヨウ素滴定法

全硫化物(TS)：検知管法

強熱減量(IL)：550℃6時間強熱

含泥率(MC)：湿式篩分法により粒径63 μ mより小さい粒子の割合

結 果

水産用水基準(2005年版)¹⁾はCODは20mg/g乾泥以下、TSは0.2mg/g乾泥以下となっており、この基準に基づくと、CODは、青森、野辺地が、TSは青森、むつが基準値を超えていた(表1)。各地点の分析値の推移(図1)によると、青森のCODは事業開始以来最高値であった。2010年は夏季の高水温の年で、これが影響した可能性はあるが、CODは青森、野辺地で、TSは青森、むつでそれぞれ基準値を超えていたことから、これらの海域では底質の悪化が懸念される。

表1 底質分析結果

調査地点	採取年月日	水深(m)	COD (mg/g乾泥)	TS (mg/g乾泥)	IL(%)	MC(%)
青森 北緯40度52分 東経140度44分	平成22年8月31日	26.8	45.38	0.30	14.00	18.02
野辺地 北緯40度56分 東経141度09分	平成22年8月25日	32.0	24.07	0.05	17.71	25.34
むつ 北緯41度14分 東経141度10分	平成22年9月15日	18.0	8.42	0.47	15.71	15.13
脇野沢 北緯41度08分 東経140度52分	平成22年9月21日	41.0	10.08	0.16	15.07	13.07

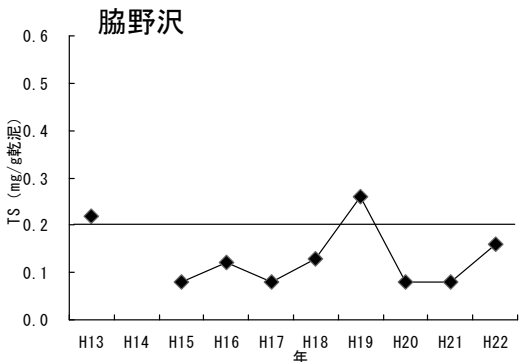
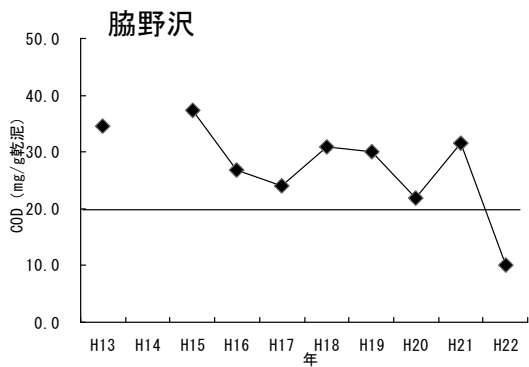
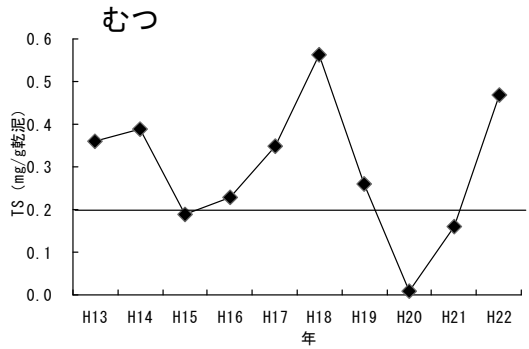
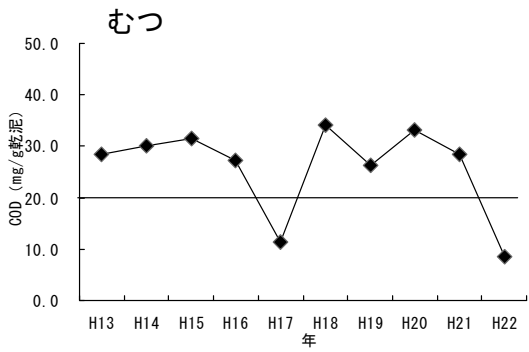
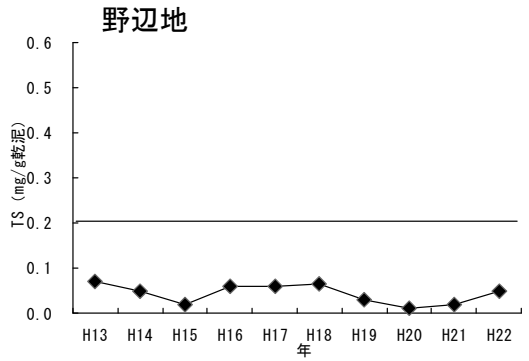
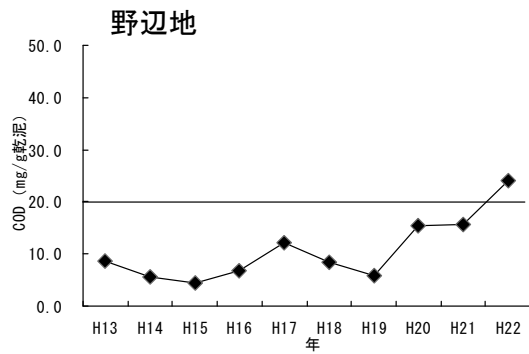
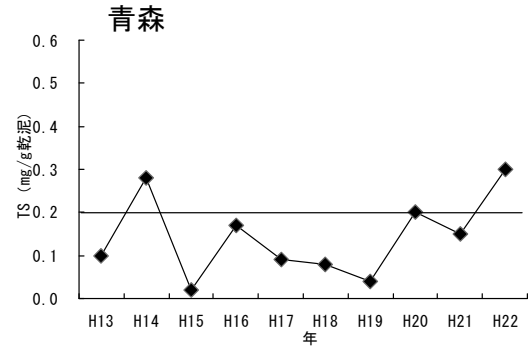
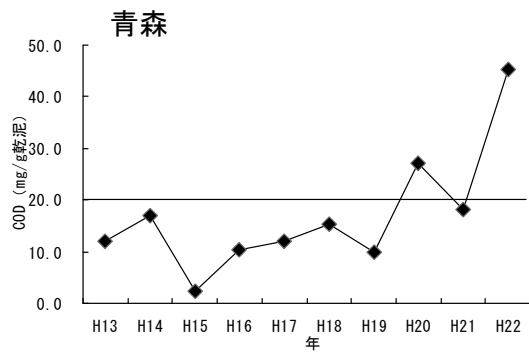


図1 CODとTS分析結果

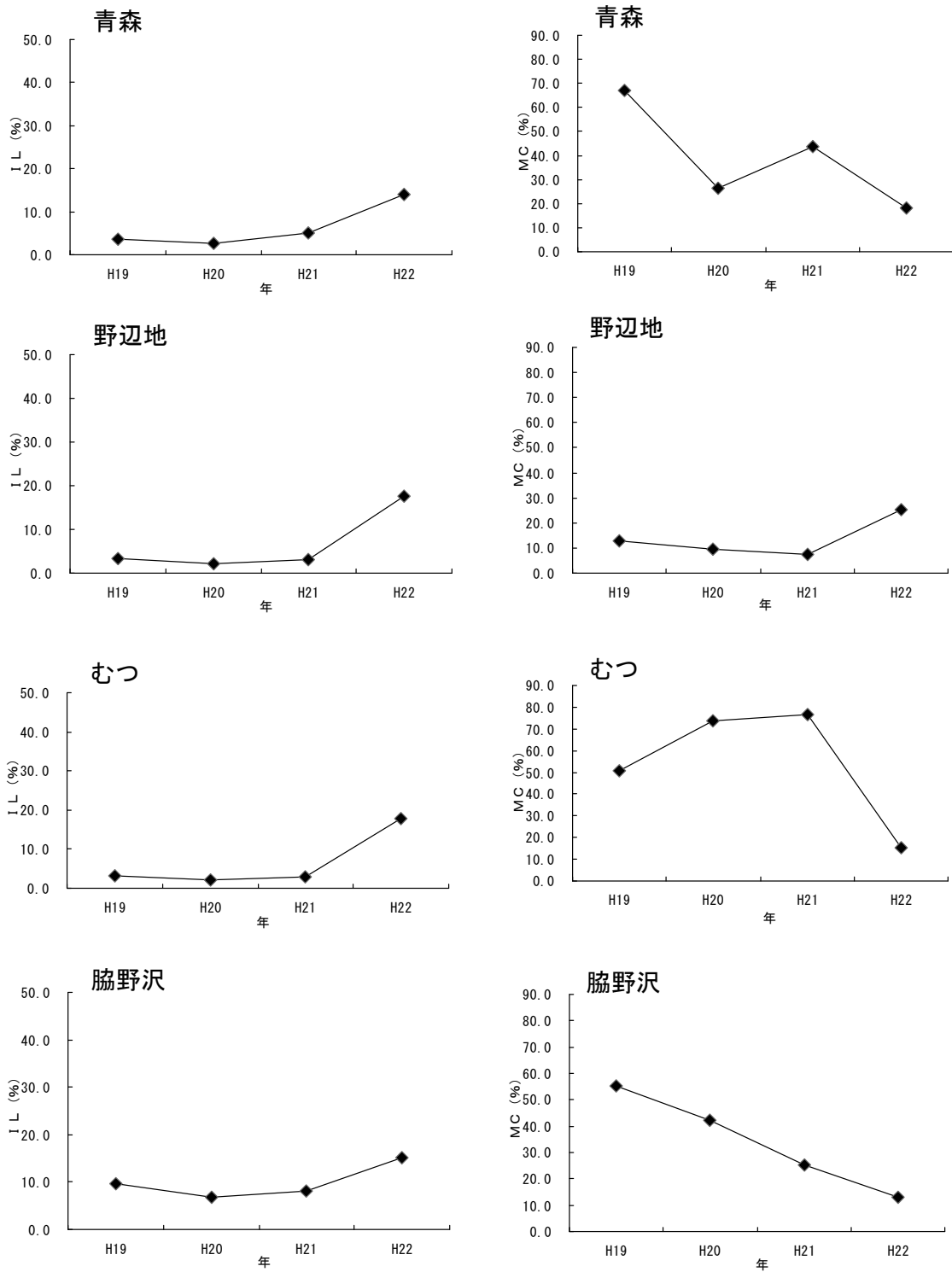


図2 I L と M C 分析結果

引用文献

- 1) 社団法人日本水産資源保護協会 (2005) 水産用水基準 (2005年版) 平成17年12月, 11-20